

ECO活動への取り組み

環境負荷低減事業

■ 太陽光発電事業

- ・「RKKソーラーパーク・荒尾」(平成 25・2013 年 10 月より稼働)
- ・環境負荷低減事業の一環として、また遊休地の有効活用手段として、ラジオ送信所(荒尾市)の敷地 14,000 m²の土地を利用した、太陽光発電事業を開始。(20 年間運用予定)
- ・年間予定発電量: 950MWh(最大発電電力 :890kW)
一般家庭に換算すると、約 264 世帯分(1 世帯あたり 3,600kWh として算出)。
- ・太陽光発電で得られた電力は九州電力株式会社に売電。
- ・この取り組みを通し、太陽光発電の必要性、安全性を分かりやすく提示し、再生可能エネルギーへの理解を深めてもらう。
- ・本館見学者スペースにおいて、太陽光発電の仕組みや日ごとの発電量などの専用画面を表示。日ごと・月ごと・年間での発電量を数値化、グラフ化するなど、社の取り組みを分かりやすく伝えられている。同時に、アンテナに設置したカメラで、ソーラー発電所のライブ映像を紹介。ソーラー発電の様子を視覚的にも伝える工夫をしている。
- ・この事業により削減される CO₂の量は、1年間で **363.5 t-CO₂**となる。
(この CO₂削減量は、RKKソーラーパーク荒尾の平成 31 年(2019)年 4 月～令和元年(2020)年 3 月の年間発電量 982,410kWh に、九州電力(株)の令和元(2019)年度の CO₂排出係数 0.000370t-CO₂/kWh を乗じたものです)

社内における環境負荷低減活動

■ 森林資源による削減活動

- ・自社所有の山林の育成、整備と伐採を森林組合と定期的実施しており、分収育林で関係する熊本県林業公社などと連携を図りながら、森林資源の育成と水資源の保全活動に向け山林の養生に努めていく。
- ・所有森林の二酸化炭素吸収量の算出を実施
<(IPCC)に準拠した算式により 2009 年度の実態から独自算出>
熊本放送の所有する山林の二酸化炭素吸収量は、**2,999 t-CO₂/年**と算出。
※熊本放送の電気・ガス使用による二酸化炭素排出量は、**1,068.3t-CO₂/年(令和元・2019 年度)**と算出。

■ 電力・ガスの使用量削減

- ・LED照明を導入。(平成 24(2012)年 6 月～)
- ・毎月の電気・ガス使用量と金額をメールで社内周知。
- ・消灯時間設定(昼休み 12 時から 13 時:夜 22 時消灯)

- ・土曜・日曜を含め帰宅時に、照明やパソコンなど身の回りにある電気製品の電源スイッチを切り、無駄をなくす節電を実施。
- ・パソコンについては、90分以上使用しない場合、電源を切る。また、休憩時間、会議などで離席する場合はアプリケーションを閉じ、スリープモードを使用。
- ・各部署のテレビは、帰宅時には電源OFF。
夜間巡回の際に照明、テレビなどの消し忘れをチェックし、該当部署には注意を促す。
- ・クールビズの実施 5月1日～9月30日
夏季空調室温 28度。及び空調時間設定 9時から 21時まで。
自動販売機のディスプレイ箇所の消灯及びタイマー運転の依頼。(販売会社により自主的に省エネ型に交換されたものもある)
- ・ウォームビズの実施 11月1日～3月31日
冬季空調室温 22度。空調用の温水の温度を下げることによりガス使用量削減。
及び空調時間設定 9時から 21時まで。
- ・エレベーター運行の制限。
平日 9時～19時のみ 2台運行。夜間・休日は必要な場合に限り、事前申請により 2台運行。
※平成 28(2016)年度は熊本地震による業務量の大幅な増大で、夏の冷房や照明の長時間使用も止むなしとしたが、長期的には節電・節ガス傾向はほぼ継続していた。
※令和 2(2020)年 2月以降は、全国的な新型コロナウイルス感染拡大と、その社内感染防止のため、1年を通して社内換気を徹底、窓解放による換気も奨励したため、冷暖房効率は若干低下、節ガス傾向は低下している。(本社ビルはガス冷暖房設備が中心のため)

■ その他の燃料・資源の使用量の削減

- ・社用車のアイドリングストップの励行。乗り合せの励行。
- ・インクカートリッジのリサイクルなど廃棄物の再資源化。
- ・コピー用紙の削減呼びかけ・不要コピー用紙の裏面活用・両面コピーの励行。
- ・機密文書や使用済み用紙のリサイクルとして、H25(2013)年 11月より溶解処理を採用。古紙のみにとどまらず、廃プラスチックや金属、溶解に使用した水までリサイクルできるシステム。個人情報漏洩防止と同時に、環境負荷軽減・シュレッダー不使用による節電など多面的な効果を生んでいる。

CO₂排出削減の目標設定について

熊本放送は、メディア企業の社会的責任として、地球環境保護と温暖化防止の取り組みを実施しています。

電気・ガス使用による CO₂排出量の削減目標については、平成 25(2013)年度～29(2017)年度の **5年間で 5%削減**することを目標に取り組みを進めました。その結果、以下の表のとおり、単年度比較で、5年のうち 4年で前年比マイナス(初年度は+0.05%)、5年間での CO₂排出量の減少は、429,6t、24,9%となりました。

※平成 24(2012)年度の CO2排出量 1,726.7 t-CO2を最初の基準として計算

目標年度	CO2排出量 (t-CO2)	前年比削減率 (%)
平成 25(2013)年度	1,727.5	+0.05 ※
平成 26(2014)年度	1,623.8	-6.39
平成 27(2015)年度	1,424.4	-14.0
平成 28(2016)年度	1,374.5	-3.5
平成 29(2017)年度	1,294.9	-5.8

※

平成 25(2013)年度から 5 年間の CO2削減率

1,726.7 t-1,294.9 t=431.8 t 431.8 t÷1,726.7 t=25.00%で目標は達成しました。

※電力使用量ベースでは、2,325,720(H24 年)-2,159,760(H29 年)=165,960kwh(5年間減少量)
165,960÷2,325,720=0.071、削減率は 5 年間で 7.1%でした。

※ガス使用量ベースでは、139,592(H24 年)-129,907(H29 年)=9,685 m³(5年間減少量)
9,685÷139,592=0.069 で、削減率は 5 年間で 6.9%でした。

平成 30(2018)年度以降の CO2削減目標について

熊本放送本社ビルは、平成 10(1998)年から翌年にかけて完成しており、当時の設備機器を大事に使っていますが、新築後 10 年以上を過ぎたところからの機器の故障や老朽化とも相まって、平成 25(2013)年度からの、『5年間の CO2排出 5%削減』の期間中に、事務フロアを中心に、従来の蛍光灯照明から、普及が進んでいた LED 照明に交換したのをはじめ、他の機器類は、故障交換の時に、省エネ効率が高いことも考慮に入れて機器の取替えを進めてきました。しかし、ハード面での省エネ・CO2削減効率の伸びは、省エネ技術の確立とともに、今後は緩やかなものになると思われる、その分、社員・スタッフの省エネ意識・エコ意識の更なる醸成など、ソフト面での省エネもさらに進めていくべきものと考えます。

弊社では、冒頭の基本理念、基本指針にも記したとおり、弊社の事業活動での CO2削減をさらに進めるため、次の 5 年間の CO2削減目標も、5 年間で 5%削減を目標とします。

※平成 30 年度の CO2削減率は、平成 29 年の CO2排出量 1,294.9 t-CO2を基準として計算

目標年度	CO2排出量 (t-CO2)	前年比削減率 (%)
平成 30(2018)年度	1,035.4	-16.2
令和元(2019 年度)	1068.3	+3.18
令和2(2020 年度)		
令和3(2021 年度)		
令和4(2022 年度)		

令和元年度

電気使用による CO2排出量 (t-CO2)

= 電気使用量 (kWh) × 九州電力の CO2排出係数 (0.000370 t-CO2/ kWh)

= 2,078,991 kWh × 0.000370 t-CO2/ kWh = 769.2 t-CO2

※熊本放送の年間電気使用量は 2,078,991kwh で、前年比で 1.87%減少しました。

※九州電力が松浦発電所2号機の運転を開始するなど、石炭火力による発電電力量割合が増えたため、CO2 排出計数が前年より若干増加しました。(0.000347⇒0.00370 t-CO2)

ガス使用による CO2排出量 (t-CO2)

= ガス使用量 (m³) × 西部ガスの CO2排出係数 (0.00227 t-CO2/ m³)

= 131,745m³ × 0.00227 t-CO2/ m³ = 299.1 t-CO2 ※CO2 排出計数は前年と同じ

※令和元(2019)年度も、春の気温が高くガス空調機による冷房運転の時期を早めたこと、さらに夏の猛暑もあり、弊社社員・スタッフの体調管理の面からも、例年よりも約 2 度低い温度設定での冷房運転を実施したことなどから、ガスの使用量は前年比 0.48% マイナスの微減に止まりました。

電気とガス使用による CO2排出量 (t-CO2) の合計

= 769.2 t-CO2 + 299.1 t-CO2 = 1068.3 t-CO2

《参考》両社が発表した CO2 排出係数

《九州電力》	平成 24 年度	0.000599	平成 25 年度	0.000617
	平成 26 年度	0.000598	平成 27 年度	0.000528
	平成 28 年度	0.000483	平成 29 年度	0.000463
	平成 30 年度	0.000347	令和 1 年度	0.000370 (単位 t-CO2/kwh)

《西部ガス》	平成 24 年度～27 年度	0.00227	平成 28 年度	0.00225
	平成 29 年度・30 年度・令和元年度	0.00227		(単位 t-CO2/ m ³)

放送番組・イベントを通しての環境に関する情報提供(番組など)

■テレビ番組

「世界一の九州が始まる！」(熊本放送 制作分)

○2021年2月28日放送 伝統文化つなぐ阿蘇のカヤ

伝統的な日本家屋の維持が困難になっている。理由の一つが茅葺き屋根の材料となるカヤの生産農家とそれを収穫できる草原の減少。一方で阿蘇はカヤを飼料に使ってきた畜産農家が減少し、使わない草原の管理に頭を痛めている。そこで阿蘇の企業「GSコーポレーション」の山本保孝さん(52)は野焼き前のカヤを買取り、京都の茅葺き職人に販売する事業に乗り出した。伝統文化の継続に2つの地域を結び付けようと奮闘する山本さんらの取り組みを紹介。

○2020年(令和2年)10月18日放送 害獣を地域の宝に～農家ハンターの挑戦

害獣から田畑を守ろうと約120人のメンバーで結成した「農家ハンター」。わなを仕掛け、捕獲してきたが、ただ駆除するだけでなくもっと活用できないか？ジビエ肉としてだけでなく、皮や油・骨も余すことなく活用しよう。代表の宮川将人さん(42)が中心となり進めてきたプロジェクト。その一つがイノシシの革製品。首からかける「マスク入れ」。さらにイノシシの油を使ったイノシシ石鹸も開発中だ。農家ハンターたちを追った。

○2020年(令和2年)5月17日放送 地球を救うミラクルミート

世界の人口増加に対して将来、食料は「タンパク質不足」に陥ることが危惧されている。そこで熊本市の企業DAIZは、大豆だけが原料の植物肉「ミラクルミート」を開発した。研究開発部長の落合幸次(52)は、はつが大豆と動物肉に含まれる成分が似ていることに着目。大豆を発芽させるための条件を変えることで牛肉や豚肉、鶏肉など、それぞれの風味に近い「肉」を作り出した。地球を救うミラクルミートの開発を追った。

○2019年(令和元年)8月4日放送 空き家の救世主

社会問題化する空き家に新たな価値を見いだす建築デザイナーがいる。「事業性がないと空き家を再生しても長続きしない」と言い切るのは、末次宏成(46)。これまで、築31年の賃貸物件や廃墟同然だった木造家屋を改修し、人気の物件や宿に再生してきた。そして、新たに着手した築55年の長屋には、入居者が地域の発信力になるという仕組みを持たせた。その仕組みとは？風変わりな物件を次々と生み出す“空き家の救世主”の挑戦を追った。

○2019年(令和元年)5月5日放送 竹箸の反撃～食卓にもう一度～

古くから日本で作られていた竹製の箸＝「竹箸」。昔はいたるところ生産されていたが、いまや「竹箸」を生産する工場は姿を消しつつある。熊本県にある「ヤマチク」は50年以上国産竹箸を作り続けている。日本有数の生産量を誇る。ヤマチク3代目の山崎彰悟(やまさきしょうご)専務29歳は竹に携わる産業すべてのビジネスモデルを考え直さないと業界が絶えると危惧する。そしてOEM主体だった「ヤマチク」は初めて自社ブランドの立ち上げを試みる

○2019年(令和元年)1月20日放送 跳べ八天狗～限界集落の挑戦～

熊本県下益城郡山都町にある水増集落。人口15人、平均年齢75歳の限界集落だ。一見、普通の中山間地域だが、県内の民間企業と協力し5年前からメガソーラー事業を展開している。水増ではその売電収入を元手に、地域の特産大豆“八天狗”の増産を始めた。これは農水省のデータベースにも記載がない幻の在来種だ。メガソーラーと幻の大豆、二つを武器に地域再生を目指す水増の取組みを、世界に誇る挑戦として紹介する。

○2018年(平成30年)6月10日放送 和室を世界へ

「和室」を海外へ輸出するプロジェクトが熊本で立ち上がった。材木業の山口哲平さん(35)は県産材の販路拡大を目指して、大工の長濱満則さん(65)は自分の木材加工技術を未来へつなげていくためプロジェクトに参加。アジア各地の視察や検討を進める中、タイから集合住宅のモデルルームでの施工依頼が届く。木材の魅力と伝統建築で表す「和室」の魅力を世界へ伝えるべく匠たちの挑戦が始まった。

「新 窓を開けて九州」(熊本放送 制作分)

○2019年(令和元年)11月3日放送 カエルは友だち ～入請樹さんの米づくり～

稲の収穫が進む熊本県南阿蘇村。刈り取りが終わった田んぼも多い中、色づいた稲を見つめるのは入請舩憲市さん(61歳)だ。「お米さんの寿命を全うさせたいから、完熟させて刈り取りたい」と笑う。彼の相棒はカエルたち。水田の生き物や微生物たちと力を合わせた米作りに挑み10年になる。沖縄県出身、東京でIT企業のシステムエンジニアとして20年以上勤めた後、「第二の人生」を求め、妻の美和子さんと共に南阿蘇村に移住、農業を始めた。入請舩さんの田んぼは、ほぼ一年中水がはっている。水生生物や土壌の微生物を繁殖させ それらを田んぼの栄養にしているからだ。相棒のカエルは田んぼに集まる害虫駆除に役立っている。「蛙はカエルさんの寝床、草を刈ると風邪をひく」から蛙は草が伸び放題。希少な水生生物の繁殖も確認されている。周囲から見ると不思議な入請舩さんの農法。最初は不審がられるも年々米の評価が上がったことで認められるようになり、少しずつ交流も増えている。入請舩さんの田んぼで行う「ヘイケボタル」を鑑賞する会が観光に一役買っていることも一因だ。「農業の力で観光客を呼び、南阿蘇を盛り上げたい」と独自の農業に挑む入請舩さんの一年を追った。

○2019年(令和元年)10月13日放送 ヒメタツに魅せられて

実は今、熊本県水俣市の海にいる「珍しい生き物」に全国から注目が集まっている。その生き物の名前は「ヒメタツ」。タツノオトシゴの仲間で、国内では116年ぶりに観測された。注目のきっかけを作ったのが、水俣在住のダイビングインストラクター森下 誠さん(49)。森下さんは故郷水俣の海に毎日潜り、海中の様子を水中カメラで撮影している。「水俣の海は復活に向かっています」と語る森下さんの写真には、ヒメタツをはじめ、サンゴ礁や海藻の森、そこで暮らすたくさんの生き物たちが映し出されている。かつて公害によって生態系を破壊された、悲しい歴史を持つ水俣の海。このマイナスのイメージをどうにかして払拭したいと考えた森下さんは、10年前にUターンし、水俣市で初となるダイビングショップ「SEA HORSE」を立ち上げた。SEA HORSEには、全国から客が訪れ、中には何度も訪れるリピーターも。その一番のお目当てはヒメタツの”生殖活動”を生で見るためだ。神秘的な生き物の命の営み、そして故郷水俣の今を伝え続ける森下さんの思いを追った。

《その他の番組》(テレビ)

○「第17回 エコ電レース大会」 2019年11月4日放送

「日本EVクラブくまもと」が技術を探求する学生に、自動車交通におけるクリーンエネルギー、その有効利用を目的として提供する「エコ電カーレース大会」。

競技を通して「モノ作りの苦勞」「チームワークの大切さ」「エネルギーの尊さ」「ボランティア活動」を体験し、21世紀に生きる地球人として、環境・エネルギー問題に実践的な取り組みができる若者を育てます。

※2020年はコロナ禍の影響もあり、走行会のみ開催でした。(番組放送はありませんでした)

■イベント

○「みどりと遊ぼう！立田山グリーンウォーク」 毎年秋開催(2020年は9月26日開催)

熊本市内にある自然林・立田山を親子で歩き自然の恵みに触れ、自然の大切さを伝える体感型イベント。当日、「緑の募金」活動を実施、集まった募金は全て熊本県緑化推進委員会を通じて、緑の保全活動に生かしてもらっている。

【この件に関する、お問合せ先】

〒860-8611 熊本市中央区山崎町 30

株式会社 熊本放送 エコ委員会 事務局 電話 096-328-5543